

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「体育館の冷房から」

町田市立小山中学校 3学年 大桑 稀菜

「税金」それは自分にとってあまり良いイメージではありませんでした。何を買うにも消費税がかかること、さらに二〇一九年十月からの増税でニュースでよく国民の不満の声をきいたことなど。どうして国民は税金のことをよく思っていないのに税金はあるのだろうか、と不思議に思っていました。そこで税金について調べてみました。

「税金」はさまざま使い道があり、そのどれもが私達の暮らしを快適に過ごせるように支えてくれていることを調べて知りました。特に、私のような学生は教育の面で支えられているなと思いました。その中でも、私が実感した税金のありがたさがありました。それは「体育館の冷房」です。私はバスケットボール部に所属していました。私が一年生の頃の夏休み、中学校の体育館は改修工事を行っていたので使えませんでした。そのため近くの小学校の体育館を使わせてもらっていました。そこには冷房はなく、暑さに弱い私は辛かったです。しかしその後、中学校の体育館の改修工事が終わり、冷房のついた体育館で部活ができるようになりました。そこでは快適に練習することができました。この冷房のような学校の施設費などは税金から出されているそうなので、やはりこの例のように私達が快適に暮らしているのは、税金のおかげだなと身近なものを通して感じました。

しかし、そんな私達を支える税金には近年、少子高齢化の問題が生じています。内容としては、働いて年金保険料を払う現役世代が、年金を受け取る高齢者世代を支える仕組みが、少子高齢化社会の進展で現役世代の負担が大きくなるというものです。この問題は近い将来さらに深刻化するようです。私はこの問題はとても難しい問題で、現役世代はこの問題がさらに深刻化することで、現役世代が高齢になったときに年金をもらえるのかすら危ういのではないかと考えました。そのためこの問題は現役世代にとっては、デメリットだらけだなと感じました。

「税金」には、このような問題があるものの、自分にはどうすることもできないと思ってしまうです。そこで私は、気持ちだけでも税金を払っていることで国のために良いことをしているんだという思考に変えて税金を払おうと思います。そして、税金は私達の暮らしをより良くするためでもあることを考えるとやはり、税金は大切に払わなくてはならないものだなと思いました。